

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査 報 告 書

令和 7 年10月

香川県教育センター

目 次

はじめに	1
調査の結果から見られる特徴	2
I 特集	5
特集1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	6
特集2 児童生徒主体の ICT 活用に向けて	12
特集3 教職員の支え合う集団づくり	14
特集4 開かれた学校づくり	16
授業や取組の改善に役立つリンク集	18
II 調査の概要	19
令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について	20
数値、グラフ等を見るうえでの留意点	22
香川県重点項目に関わる質問事項	24
III 調査結果（概論）	25
全体的な状況【小・中学校】	26
正答数分布【小学校】	27
正答数及び IRT バンド分布【中学校】	28
無解答率【小・中学校】	29
香川の結果に特徴の見られる質問【児童生徒質問調査】	30
香川の児童生徒質問調査 選択肢別の平均正答率	32
香川の結果に特徴の見られる質問【学校質問調査】	35
Question 1 学習意欲に関わる質問項目	38
Question 2 言語活動に関わる質問項目	40
Question 3 学習習慣に関わる質問項目	42
Question 4 自己有用感等に関わる質問項目	44
Question 5 学校生活に関わる質問項目	46
あのときの6年生は今？	48
IV 教科に関する調査結果及び分析	49
1 小学校国語	50
2 小学校算数	58
3 小学校理科	66
4 中学校国語	74
5 中学校数学	82
6 中学校理科	90
V 質問調査結果（児童生徒質問調査・学校質問調査）	99
1 児童生徒質問調査 結果一覧	100
2 学校質問調査 結果一覧	105

I
特
集

II
調
査
の
概
要

III
概
論

IV
小
国
語

IV
小
算
数

IV
小
理
科

IV
中
国
語

IV
中
数
学

IV
中
理
科

V
児
童
生
徒
質
問

V
学
校
質
問

はじめに

全国学力・学習状況調査は、平成 19 年度に始まり、令和 7 年度の実施で合計 17 回を数えることになりました。

その間、東日本大震災の影響（平成 23 年度）や、新型コロナウイルス感染症の影響（令和 2 年度）で実施が見送られた年はあったものの、「児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる」「教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る」という調査の目的は一貫して継続されています。

令和 7 年度調査の特徴は、教科調査の中学校理科が文部科学省 CBT システム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT：Computer Based Testing）で実施されたり、国による結果公表の内容やスケジュールが改善されたりしたことなどです。

県教育委員会では、本県の状況を全国との関係の中でより具体的に示し、課題が浮き彫りとなるよう、教科に関する調査だけでなく、児童生徒質問調査や学校質問調査も含めて、それぞれについて分析し、その結果をまとめています。今年度は、以下の点を工夫して報告書を作成しました。

- 香川の結果に特徴の見られる質問とつないで、4 つの特集『『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実』『児童生徒主体の ICT 活用に向けて』『教職員の支え合う集団づくり』『開かれた学校づくり』を作成しました。
- これまでの課題としての香川県重点項目に関する 5 つの事項を Q & A で整理しています。
- 特集および Q & A のページは、どのように改善すれば回答状況が変化するのか、学校の取組の状況と児童生徒の学習の状況を捉え、今後の方針を「コラム」で提案しています。
- 「あのときの 6 年生は今？」と題して、令和 4 年時に小学校 6 年生だった児童が中学校 3 年生となった現在の変容を、同じ質問に対する回答結果から分析しています。

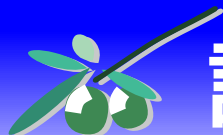
なお、本報告書に掲載した設問や質問の結果について、自校のデータを表やグラフに表示する「活用ツール」を当センター Web サイトに掲載しています。

各市町（学校組合）教育委員会や各学校におかれましては、本報告書や「活用ツール」も活用いただき、市町（学校組合）教育委員会や自校の現状把握・分析・改善とともに、同一校区内の小・中学校間の連携にも取り組んでいただきますようお願いいたします。

当センターといたしましても、指導主事が直接学校に出向き、状況の分析や改善について一緒に考えるなど、一層の学校支援に努めてまいりますので、どうぞご相談ください。

令和 7 年 10 月

香川県教育センター
所長 福田 宏志



調査の結果から見られる特徴

教科に関する調査

資料に書かれている文や図が示している意図は何かを考え、解釈して表現することや、知識・技能を様々な問題場面に生きて働くものとして習得することに課題がある。

国 語

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることや、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られた。

- ・ 小学校国語 [3]三(1) 正答率 41.2% ➡P57
- ・ 中学校国語 [1]四 正答率 29.9% ➡P80

算数・数学

数の表し方の仕組みや単位となる数に着目して計算の仕方を考察することや、条件を変えた際、変わらない関係や変わる関係を見だし、証明を評価・改善することに課題が見られた。

- ・ 小学校算数 [3](2) 正答率 24.4% ➡P64、65
- ・ 中学校数学 [9](2) 正答率 36.8% ➡P88、89

理 科

理科学習で得た概念を使い、ものづくりや追加の実験を発想して表現することや、身に付けた知識を身近な現象で活用できる程度に概念を理解することに課題が見られた。

- ・ 小学校理科 2 正答率 42.5% ➡P73
- ・ 中学校理科 [1](3) 正答率 36.0% ➡P96

質問調査

各校で「協働的な学び」の取組が大切にされている。

- ・「^{■31} 学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した」と肯定的に回答した学校の割合は、小・中学校で 90%を超えている。 ➡P8

「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。

- ・「^{□5}自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で 85.0%、中学校で 82.6%であり、R3年度以降、最も高い割合であった。 ➡P44

「学校に行くのは楽しいと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。

- ・「^{□12} 学校に行くのは楽しいと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で 85.6%、中学校で 84.2%であった。 ➡P46

学校の授業時間以外の 1 日当たりの勉強時間は減少傾向にある。

- ・「^{□17} 普段、1 日当たり 1 時間以上勉強している」と回答した児童生徒の割合は、R3年度以降、全国的に減少傾向が見られる。 ➡P42

一人一台端末の使用頻度は増加している。

- ・「^{□28} ICT 機器を週 3 回以上使用している」と回答した児童生徒の割合は、R6年度より、小学校で 15pt、中学校で 12pt 増加したが、全国と比較すると下回っている。児童生徒が目的をもって主体的に ICT を活用できるようにすることが大切である。 ➡P12

